

福島原発事故から12年

東日本大震災から12年が経過しました。震災による死者・行方不明者は、震災関連死者を含め2万2212名(3月11日現在)。年忌法要によれば逝去後12年目の命日は13回忌で、故人は大日如来と一体化して仏になる時とのことです。私たちは、かけがえのない親族・縁故者を失い、放射能に汚染され、故郷を奪われた人々の悲しみと怒りに思いを寄せ続けることが大切だと思います。

福島原発事故は、3基の原発が同時にメルトダウンするという人類が経験した最も深刻な「人災」です。国際原子力事故評価尺度でレベル7とされますが、評価尺度7以上の規定がないので「規定できない深刻な事故」と言えます。事故を受け、政府(民主党政権)が出した原子力緊急事態宣言は12年たった今も出されたままです。事故時の放射性物質の拡散情報や避難指示の連絡・広報が不適切で、住民避難の混乱

や緊急対応(安定ヨウ素剤配布など)が不十分な結果、子どもたちの甲状腺がんが広がり、高齢者の避難先での関連死につながりました。

原発事故は終わっていません

なぜ原発事故が起きたのか。東電の事故調査委員会や政府・国会の事故調査検証委員会などが報告書を提出し、「調査検証は終了した」として調査委員会は解散しました。いずれの検証結果も、高濃度の放射線物質に阻まれ、独自の現場検証は行われず、事業者(東電)の提供する原子炉・格納容器のデータに基づき、「想定外の巨大津波」による全電源喪失が主因とし、原子炉をはじめ配管やバルブ、測定機器類の破損状態、メルトダウンに至る推移は不明のままでした。

しかし、12年間で除染作業が進み、ロボットによる原子炉・格納容器内部の調査、炉底のデブリ状態の撮影が行われ、少しずつ新たな事実が明らかになりました。しかし、各原子炉のメルトダウンに至る推移や周辺の機材、測定器の損傷状態など、不明点はまだまだ多くあります。暗中模索状態で行った吉田第一原発所長の現場指揮や東電本社・通産省・政府の対応が適切であったのかなども厳しく検証され教訓化される必要があります。「日本の原発は事故を起こさない」という過信・原発神話で、過酷事故に対する準備も訓練も全くなかった事実も忘れてはなりません。深刻な事故の発端となった1号機

【裏面につづく】

Love & Peace!!

私たちは、3.11 東日本大震災と福島第一原発事故以降、毎月11日に街頭宣伝活動を行っている労働組合です。



全造船関東地協労働組合
よこはまシティユニオン

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505
TEL&FAX 045-575-1948
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



の水素爆発が、発電開始から 40 年目であり、原子炉の中性子脆化・周辺機材の老朽化との関連も究明される必要があります。1号機は日本初の商業用原発で、アメリカ原発メーカー GE 社が設計・施工・運転開始まで全工程を請負契約（リターンキー契約）し、東芝・日立・三菱重工が下請けで建設したものです。事故に対する GE 社の設計責任が全く検証されていないことも明らかにすべきだと思います。原発事故は続いています。

原発神話を復活させてはならない

岸田政権は、福島原発事故を忘れたかのように、原発再稼働、老朽原発の 60 年稼働、新型炉建造などを骨子とする GX 関連法案を閣議決定し、推進しようとしています。原発事故から何を学んだのか！ 原発事故による

悲しみと苦しみと全く真逆な政策を政権・行政主導で行おうとしています。原発事故で崩壊した「原発神話」を復活させ、「安全・低価格」の宣伝を「脱炭素・エネルギーの安定供給」に変えて国民を欺こうとしているものです。主権は国民にあることを思い起こすべきです。

私たちは、改めて「なぜ原発が必要なのか」「なぜ国策民営で行うのか」など根本的な課題を問うことが必要です。生活に直結し、世代を超えて深刻な影響を及ぼす原発・核エネルギー問題として、「今エネルギーを享受している世代」の市民として考える責任があるように思います。通産省官僚と電力事業者・財界が作り、各分野の御用学者がお墨付きを当てて作った原発再稼働・GX 推進法案に強く反対し続けることが必要と思います。

【組合員 Y】

♥ 故長尾光明さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員の長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010 年 4 月）。

♥ 原発で働く労働者と共に闘います

原発は電力会社を元請とした 4～8 次の下請会社で稼働しています。3.11 以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40 代男性）は 2016 年 11 月 22 日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

♥ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月 11 日に街頭宣伝活動を始めて、もうすぐ 12 年になります。労働組合としてできる事は何かをいつも考えています。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！

【2023 年 4 月 11 日】